

5 - 2 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動 (1979年7月～1979年12月)

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,
Southwest Japan(July, 1979～December, 1979)

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所・北陸微小地震観測所

京都大学理学部 阿武山地震観測所

Tottori Microearthquake Observatory and
Hokuriku Microearthquake Observatory, Disaster Prevention Research Institute;
Abuyama Seismological Observatory, Faculty of Science;
Kyoto University

中国東部・近畿北部・北陸地域の、1979年後半期(7月～12月)の地震活動について報告する。これらの地域については、各半年毎の結果を報告してきた。今回報告する期間の特徴は以下の通りである。

1. 阿武山地震観測所の観測結果(第1図)

琵琶湖西岸の坊村観測点の北々東約5kmに、M4.9(気象庁による)の地震が発生した。これは1975年テレメーター観測開始以来、阿武山観測網内では最大の地震である。

従来いわれているように、この辺りの地震は余震を伴いにくく、今回の地震についても余震活動は、平常のサイズシティより少し高くなったという程度で、非常に低いものであった。また前震も観測されなかった。

妙見観測点周辺のサイズシティは相変わらず高く、阿武山で時々有感地震(M2.7～3.0)がある。

2. 北陸微小地震観測所の観測結果(第2図)

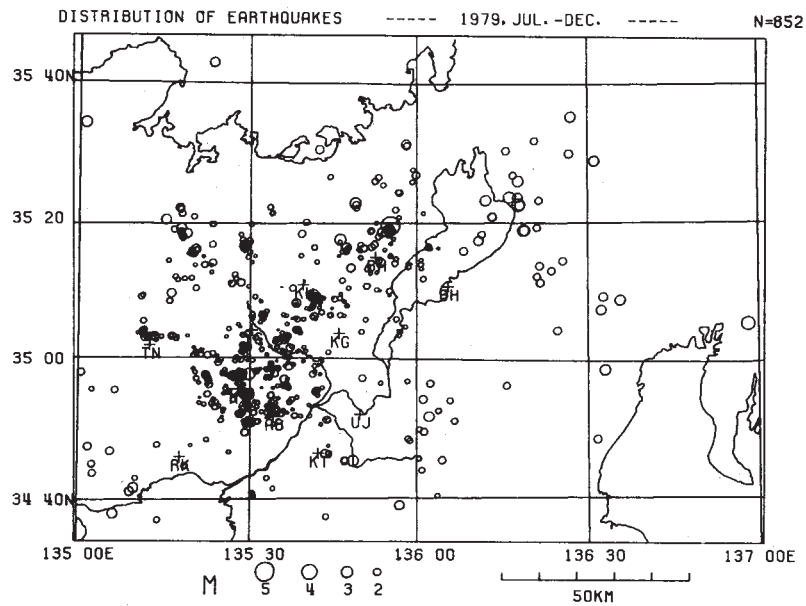
全般的にサイズシティはやや低く、震源決定された地震数は、昨年同期(1978年後半期)と比べて約6割である。

福井地震断層に沿う震央の線状配列がやや目立つ。越前岬附近に多少の活動が見られる。

3. 鳥取微小地震観測所の観測結果(第3図)

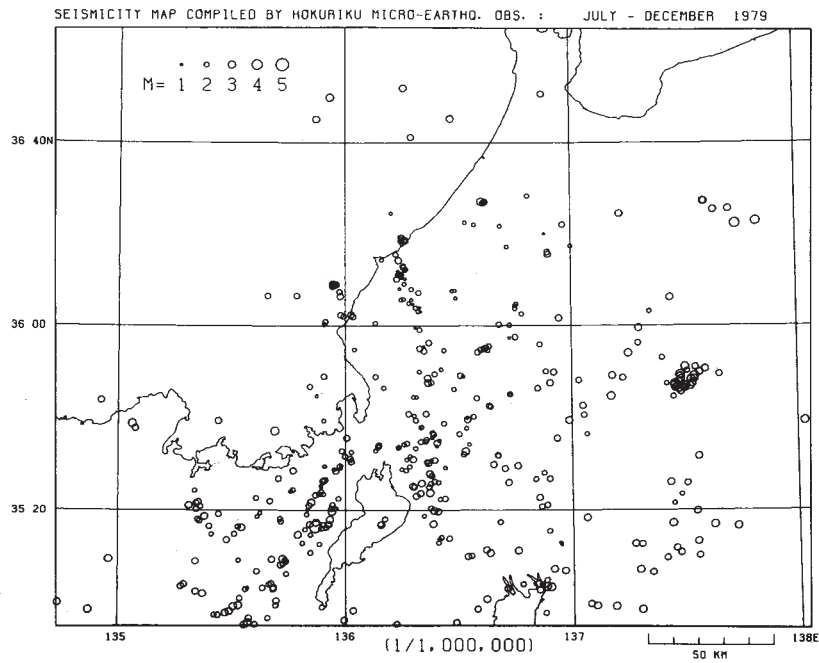
山崎断層を取囲む形で地震活動が活発であった。山崎断層の大部分に沿ってはM1～2の地震が散在する程度であるが、10月14日、断層の東南端福崎町にM～4.5の地震が発生した。また12月29日には、断層中央部の東南側(三日月観測点附近)にM4.8の地震が発生した。これら2例の地震に伴って、夢前町塩田温泉(福崎町の西7km)における自噴泉水中の塩素イオン濃度の変化が観測されたが、詳細は次号で報告する。

その他，小豆島北側の瀬戸内海を始め，全域に $M \geq 3$ 程度の地震が散在している。



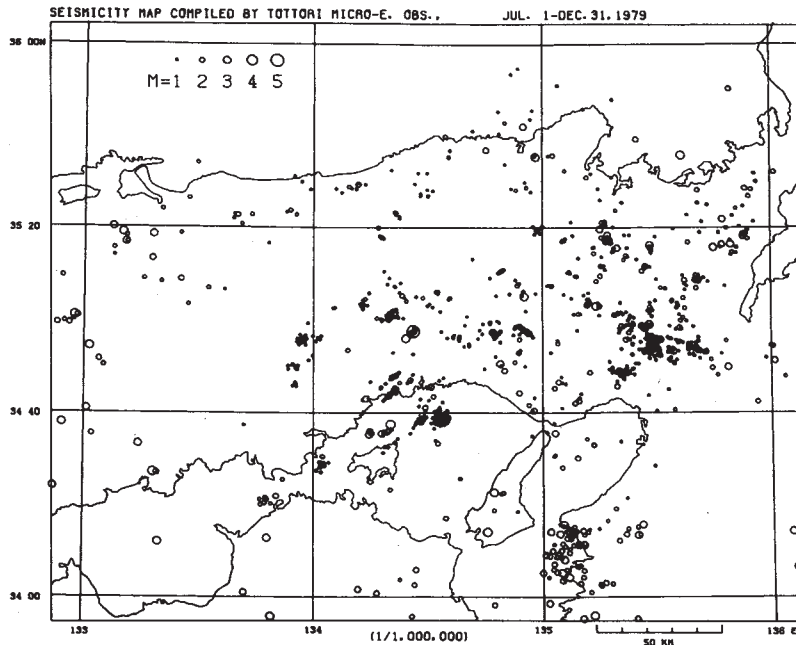
第 1 図 阿武山地震観測所による震央分布図

Fig. 1 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory.



第 2 図 北陸微小地震観測所による震央分布図

Fig. 2 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory.



第3図 鳥取微小地震観測所による震央分布図

Fig. 3 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory.